

2015/7/15

柏の景気情報（平成27年6月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成27年6月分）

○ 調査期間 : 平成27年6月22日～7月7日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	85	54.5%
建設	44	23	52.3%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	28	65.1%
サービス	36	16	44.4%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成27年6月の調査結果のポイント】

《業況DIは横ばい推移。コスト高が続き景気回復の実感は得られず》

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.7(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が0.4ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲39.2(同▲50.0)である。変わらない業種は、建設業▲26.0(同▲26.0)、製造業▲11.1(同▲11.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲12.5(同±0.0)である。

【建設業】からは、「仕入れ価格が上げ止まりとなり落ち着いたが、施工単価が下がり、厳しい状況が続いている。6月の売り上げは、前年より若干増加したが、3、4、5月と売上が減少した状態での持ち直し迄には至らない。6月に入り順調に進行していた工事も、長雨の影響で予定が大幅にずれ、7月は忙しくなりそうだ」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「原料が市場で投機対象になり、乱高下している」(特殊産業用機械)、「当社では卓球ラケット、ベッド等が安定して良い。建設機械は中国景気、資源問題で非常に悪い」(その他の金属製品製造業)、「為替差益で利益はやや好転。内需回復は厳しい状況。新製品市場投入により設備投資本格化」(織物業)、「自社業況は改善に向かっていると思う。地域の業況を参考にしながら、現在、何を優先すべきかを考え、対応の幅を広げ、この地域で継続することを思っている」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「父の日は売り上げが良かったです」(菓子・パン小売業)、「市場全体としては、入荷減少、単価高での取り引きとなっています。今後については、夏期イベントに合わせた商材に取り組み、安定供給する様に努力しています」(食料・飲料卸売業)、「中元は、前年よりも1週早めて展開したものの、6月に入っても好調に推移。衣料品は6月末スタートのセールを本年7月スタートに変更のため、後半は苦戦している。宝飾・時計などの高額品は、前年に引き続き好調を維持。前年、消費税の反動が最も大きかっただけに、当面この傾向は続くと思われる」(百貨店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「夏以降、学生衣料、靴、鞆類、他の値上げラッシュ。理由として為替の影響が大きい」(その他の飲食料品小売業)、「法人需要、個人需要ともに北陸方面が大人気。特に10、11月は会議や学会などで、平日も週末も既に予約でいっぱいの日も多い。国内個人需要では、大阪のテーマパークにアーリーパークインできる商品が相変わらず人気。国内海外ともに、日数の短いショートクルーズが人気。海外は、法人・個人ともに韓国が不調」(旅行業)、「相変わらず、お客様からの問合せは多いです。但し、購入には及び腰で、値下げ要求が厳しい。仕入れ値が上昇しており、物件仕入れが難しくなっている」(不動産管理業)、「近年、市内及び隣の流山市のあちこちで大型のマンション建設が進んでいますが、地域の持続的成長を考えた時、不安な部分を感じます」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎仕入単価上昇

「仕入単価の増加分を積算価格に転嫁できず、賃金を上げられない。工事の品質を保つため努力をしている」(電気工事業)、「仕入れ価格が全て上昇しているのに、価格転嫁出来ない。仕事はあるのに利益が出ないです」(内装工事業)、「円安による海外調達品の値上がりや運転手不足による運賃の高騰、後継者不足による町工場的協力会社の減少などの問題がある。これらにより、仕入価格が上昇し、原価率悪化に影響を及ぼしている」(その他の機械・同部品製造業)などのコメントが寄せられた。

◎実感なき景気回復

「業況回復の兆しは感じられないが、柏市内、柏市近郊での物件依頼、見積りが今年はずえている」(その他の職別工事業)、「政府やマスコミによる景気回復報道は、全く現実の経済状況とはかけ離れていると感じる。格差社会がもたらす将来の影響は大で、大きな懸念を持つ。一般的に個人消費は良くないが、それは今までのやり方に胡坐をかいている多くの企業の問題かも知れない。欲しいものには多くのお金を出す傾向も感じ取れる。雇用状況は良くない。辞めない会社の作り方や労働環境の改善が急務である」(各種食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎プレミアム商品券

「7月からのプレミアム商品券の発行で、多少、景気が上向きになることを期待したい」(その他の各種商品小売業)、「前月同様に、前年比較で売り上げは減少。7月はプレミアム商品券、柏まつり、地域のイベント等で、希望を持って事業を推進したいです」(酒場・ピアホール)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲24.3	▲20.0	±0.0	▲54.1	▲13.3
2月	▲18.5	▲28.5	▲5.2	▲32.0	±0.0
3月	▲12.0	▲9.0	△15.7	▲42.3	±0.0
4月	▲16.8	▲13.0	▲5.5	▲44.4	△13.3
5月	▲24.3	▲26.0	▲11.1	▲50.0	±0.0
6月	▲24.7	▲26.0	▲11.1	▲39.2	▲12.5
見通し	▲15.2	▲8.6	▲5.5	▲28.5	▲12.5

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成27年6月の業況についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.7(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が0.4ポイント拡大した。

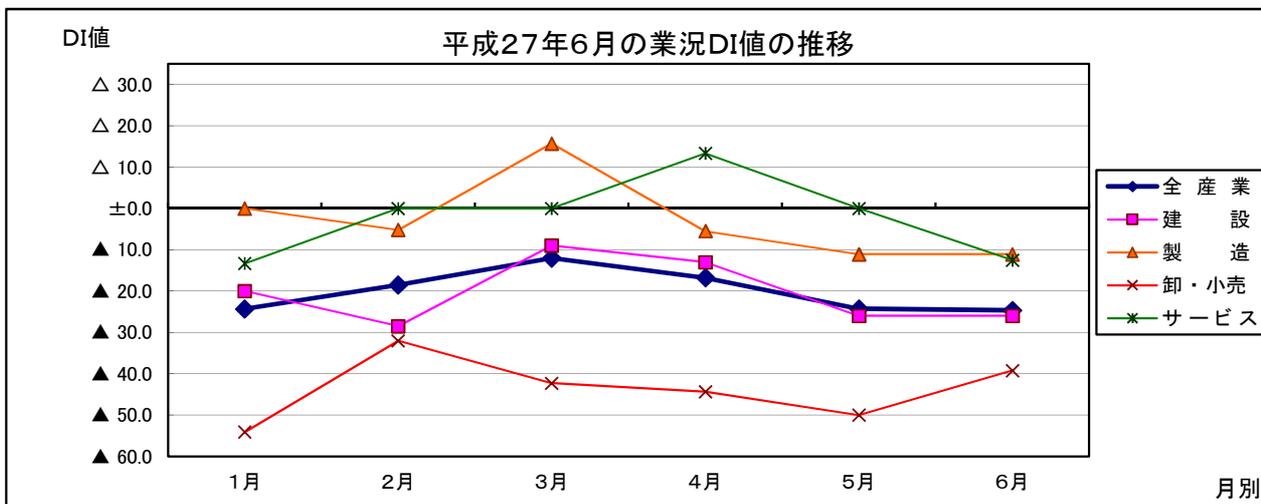
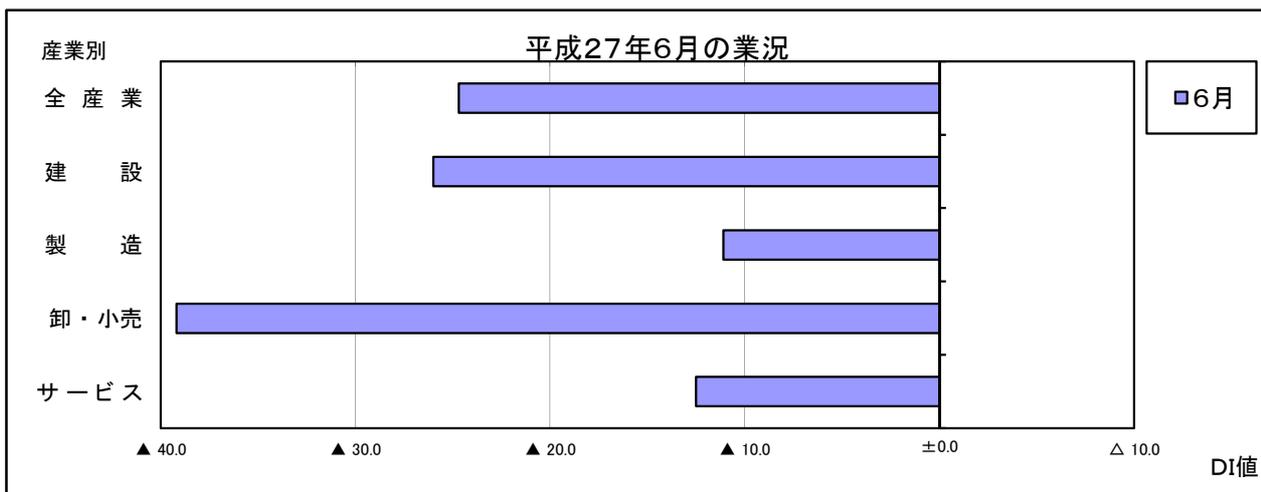
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲39.2(同▲50.0)である。変わらない業種は、建設業▲26.0(同▲26.0)、製造業▲11.1(同▲11.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲12.5(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.2(前月水準▲12.1)となり、マイナス幅が3.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲8.6(同▲13.0)、卸小売業▲28.5(同▲29.1)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲12.5(同±0.0)、製造業▲5.5(±0.0)である。

平成27年6月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲24.3	▲18.5	▲12.0	▲16.8	▲24.3	▲24.7	▲15.2(▲12.1)
建設	▲20.0	▲28.5	▲9.0	▲13.0	▲26.0	▲26.0	▲8.6(▲13.0)
製造	±0.0	▲5.2	△15.7	▲5.5	▲11.1	▲11.1	▲5.5(±0.0)
卸・小売	▲54.1	▲32.0	▲42.3	▲44.4	▲50.0	▲39.2	▲28.5(▲29.1)
サービス	▲13.3	±0.0	±0.0	△13.3	±0.0	▲12.5	▲12.5(±0.0)



【平成27年6月の売上についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.2(前月水準▲17.0)となり、マイナス幅が8.8ポイント縮小した。

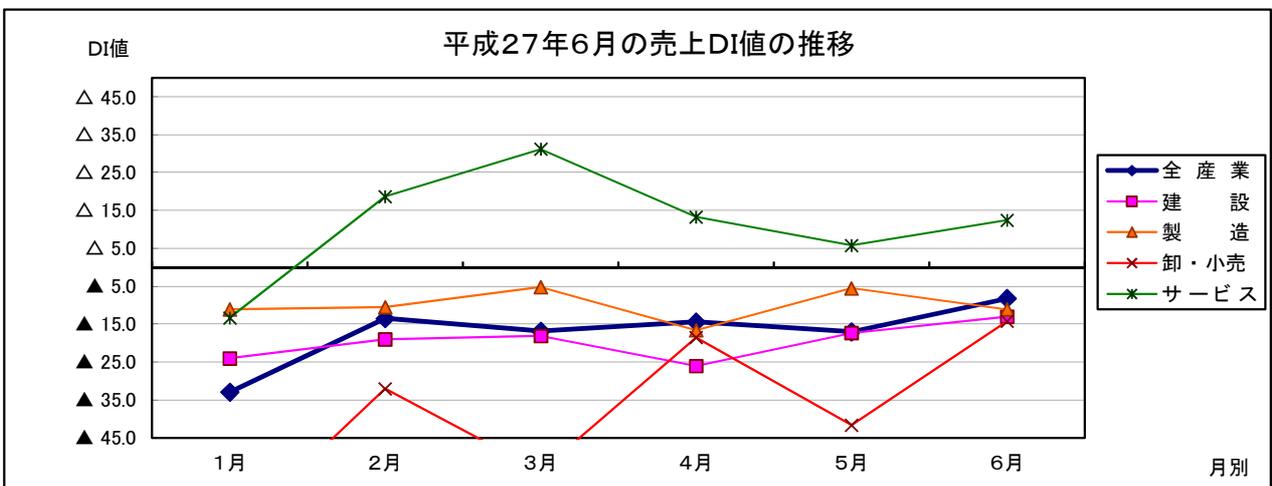
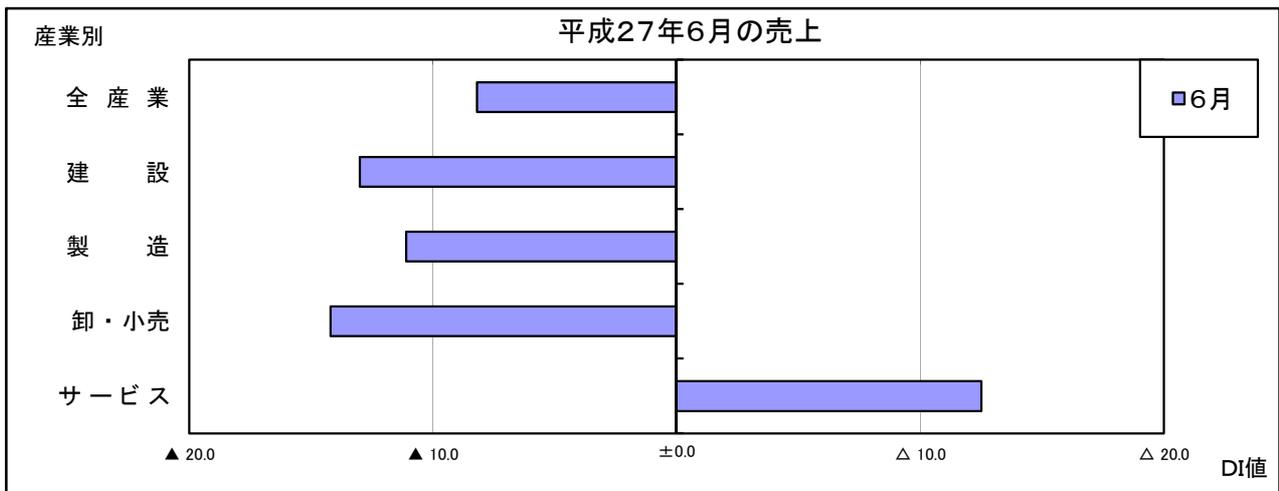
業種別では、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△12.5(同△5.8)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲14.2(同▲41.6)、建設業▲13.0(同▲17.3)となり、卸小売業では、マイナス幅が27.4ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲11.1(同▲5.5)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△3.5(前月水準▲8.5)となり、マイナスからプラスへ12.0ポイント改善する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△25.0(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△5.5(同▲11.1)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲7.1(同▲20.8)である。変わらない業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。

平成27年6月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲32.9	▲13.5	▲16.8	▲14.4	▲17.0	▲8.2	△3.5(▲8.5)
建設	▲24.0	▲19.0	▲18.1	▲26.0	▲17.3	▲13.0	±0.0(±0.0)
製造	▲11.1	▲10.5	▲5.2	▲16.6	▲5.5	▲11.1	△5.5(▲11.1)
卸・小売	▲70.8	▲32.0	▲53.8	▲18.5	▲41.6	▲14.2	▲7.1(▲20.8)
サービス	▲13.3	△18.7	△31.2	△13.3	△5.8	△12.5	△25.0(±0.0)



【平成27年6月の採算についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.8(前月水準▲29.2)となり、マイナス幅が3.4ポイント縮小した。

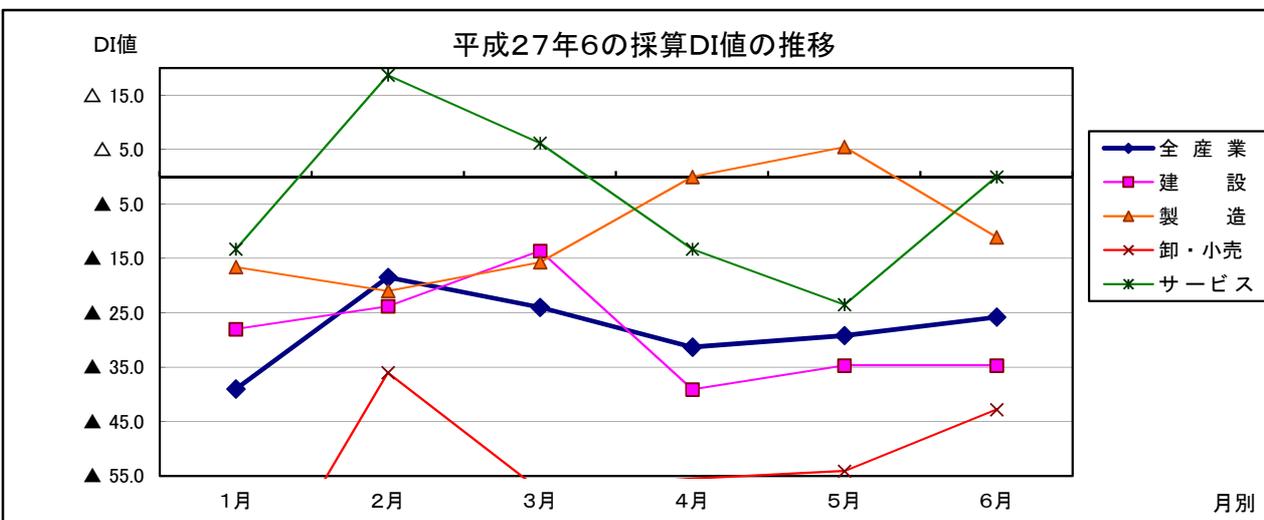
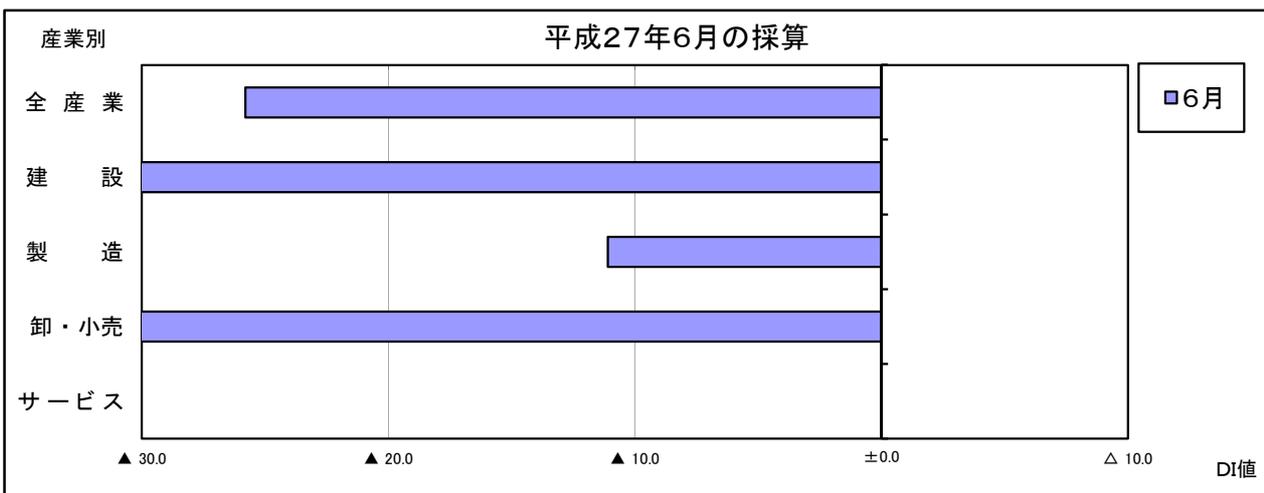
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲23.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲42.8(同▲54.1)である。変わらない業種は、建設業▲34.7(同▲34.7)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲11.1(同△5.5)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.0(前月水準▲26.8)となり、マイナス幅が19.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲33.3)、サービス業△18.7(同▲11.7)となり、製造業では、33.3ポイント、サービス業では、30.4ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲21.4(同▲37.5)、建設業▲13.0(同▲21.7)である。

平成27年6月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲39.0	▲18.5	▲24.0	▲31.3	▲29.2	▲25.8	▲7.0(▲26.8)
建設	▲28.0	▲23.8	▲13.6	▲39.1	▲34.7	▲34.7	▲13.0(▲21.7)
製造	▲16.6	▲21.0	▲15.7	±0.0	△5.5	▲11.1	±0.0(▲33.3)
卸・小売	▲83.3	▲36.0	▲57.6	▲55.5	▲54.1	▲42.8	▲21.4(▲37.5)
サービス	▲13.3	△18.7	△6.2	▲13.3	▲23.5	±0.0	△18.7(▲11.7)



【平成27年6月の仕入単価についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲47.0(前月水準▲36.5)となり、マイナス幅が10.5ポイント拡大した。

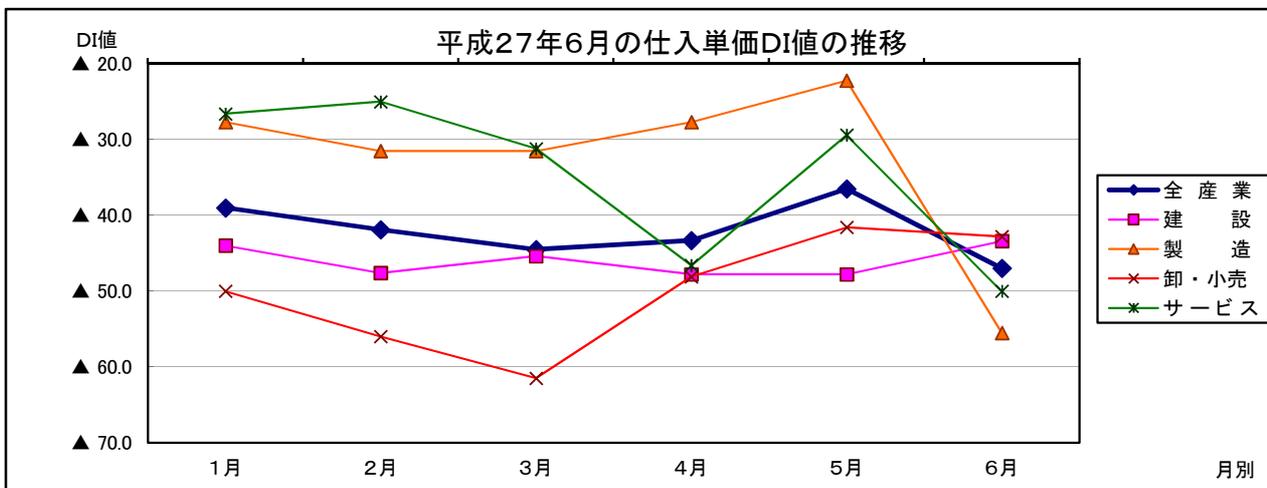
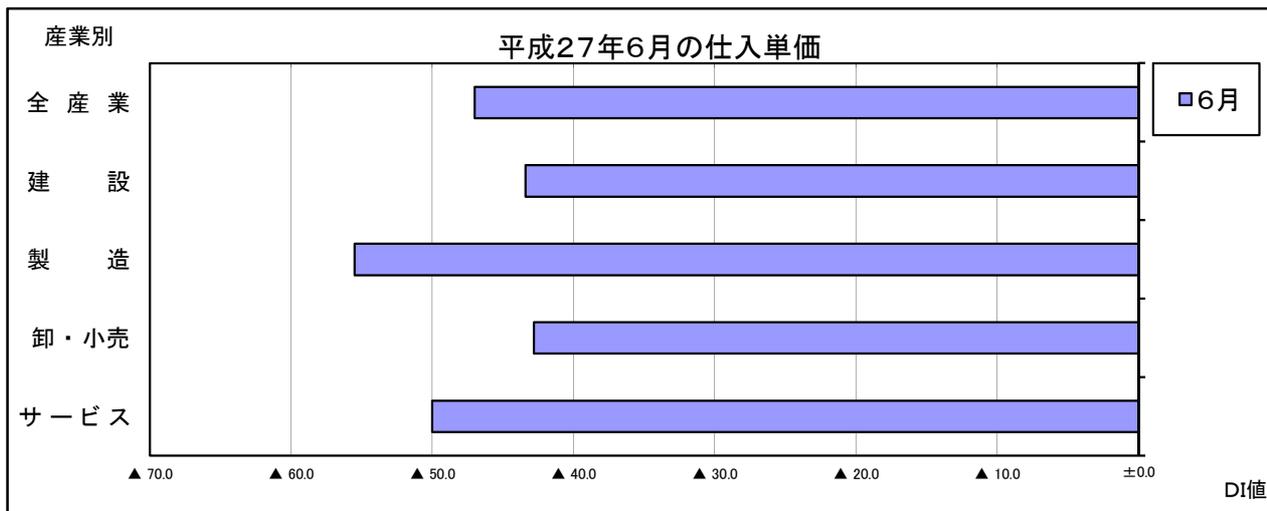
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲43.4(同▲47.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲55.5(同▲22.2)、サービス業▲50.0(同▲29.4)、卸小売業▲42.8(同▲41.6)となり、特に製造業では、33.3ポイント、サービス業では、20.6ポイントと大幅に悪化した。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.0(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が2.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲25.0(同▲35.2)である。変わらない見通しの業種は、建設業▲17.3(同▲17.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲39.2(同▲29.1)、製造業▲22.2(同▲16.6)である。

平成27年6月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲39.0	▲41.9	▲44.5	▲43.3	▲36.5	▲47.0	▲27.0(▲24.3)
建設	▲44.0	▲47.6	▲45.4	▲47.8	▲47.8	▲43.4	▲17.3(▲17.3)
製造	▲27.7	▲31.5	▲31.5	▲27.7	▲22.2	▲55.5	▲22.2(▲16.6)
卸・小売	▲50.0	▲56.0	▲61.5	▲48.1	▲41.6	▲42.8	▲39.2(▲29.1)
サービス	▲26.6	▲25.0	▲31.2	▲46.6	▲29.4	▲50.0	▲25.0(▲35.2)



【平成27年6月の従業員についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△10.5(前月水準△8.5)となり、プラス幅が2.0ポイント拡大した。

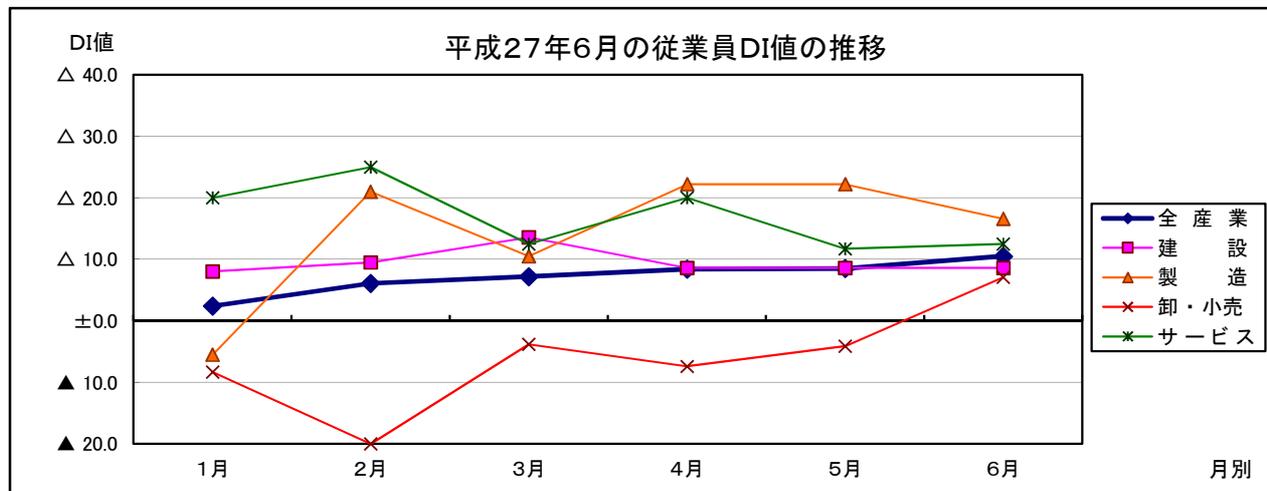
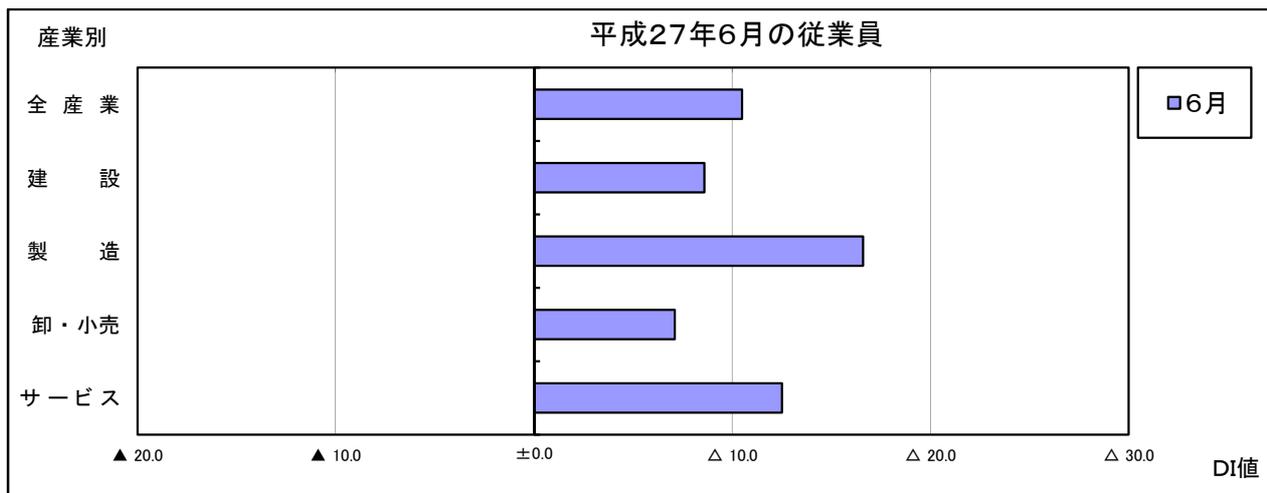
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△12.5(同△11.7)である。マイナスからプラスに転じた業種は、卸小売業△7.1(同▲4.1)である。変わらない業種は、建設業△8.6(同△8.6)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業△16.6(同△22.2)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△7.0(前月水準△15.8)であり、プラス幅が8.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、全ての業種でプラス幅が縮小する見通しであり、幅の大きい順に、製造業△5.5(同△16.6)、サービス業△12.5(同△23.5)、建設業△13.0(同△21.7)、卸小売業±0.0(同△4.1)である。

平成27年6月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	△2.4	△6.1	△7.2	△8.4	△8.5	△10.5	△7.0(△15.8)
建設	△8.0	△9.5	△13.6	△8.6	△8.6	△8.6	△13.0(△21.7)
製造	▲5.5	△21.0	△10.5	△22.2	△22.2	△16.6	△5.5(△16.6)
卸・小売	▲8.3	▲20.0	▲3.8	▲7.4	▲4.1	△7.1	±0.0(△4.1)
サービス	△20.0	△25.0	△12.5	△20.0	△11.7	△12.5	△12.5(△23.5)



【平成27年6月の資金繰りについての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5. 8(前月水準▲8. 5となり、マイナス幅が2. 7ポイント縮小した。

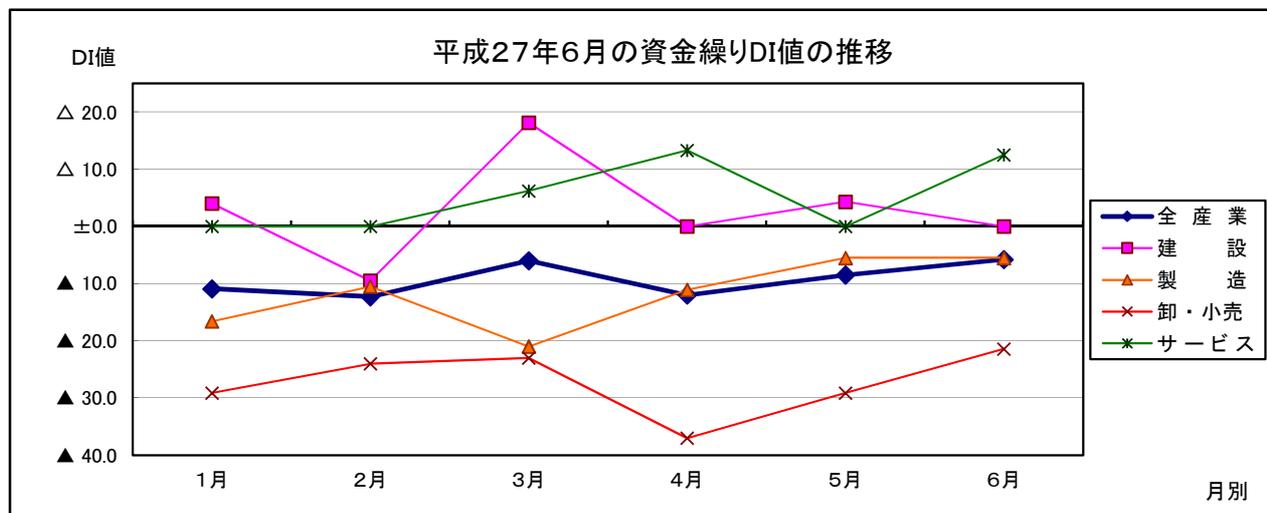
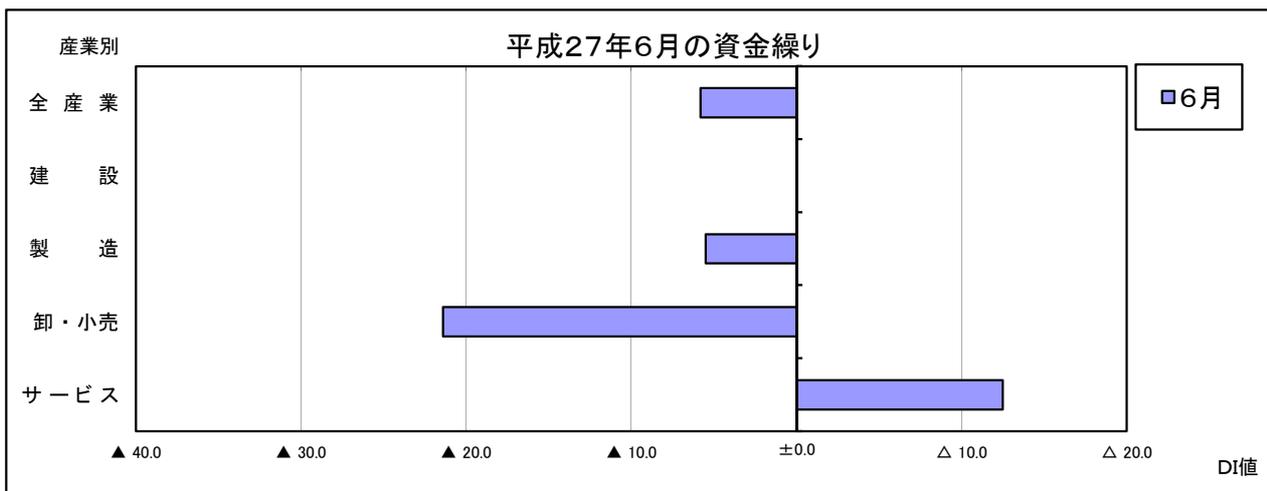
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△12. 5(同±0. 0)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲21. 4(同▲29. 1)である。変わらない業種は、製造業▲5. 5(同▲5. 5)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業±0. 0(同△4. 3)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4. 7(前月水準▲4. 8)となり、マイナス幅が0. 1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△13. 0(同△8. 6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5. 5(同▲16. 6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0. 0(同△11. 7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲21. 4(同▲20. 8)である。

平成27年6月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成27年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲10.9	▲12.3	▲6.0	▲12.0	▲8.5	▲5.8	▲4.7(▲4.8)
建設	△4.0	▲9.5	△18.1	±0.0	△4.3	±0.0	△13.0(△8.6)
製造	▲16.6	▲10.5	▲21.0	▲11.1	▲5.5	▲5.5	▲5.5(▲16.6)
卸・小売	▲29.1	▲24.0	▲23.0	▲37.0	▲29.1	▲21.4	▲21.4(▲20.8)
サービス	±0.0	±0.0	△6.2	△13.3	±0.0	△12.5	±0.0(△11.7)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 8.2	△ 3.5	▲ 25.8	▲ 7.0	▲ 47.0	▲ 27.0	△ 10.5	△ 7.0
建設	▲ 13.0	±0.0	▲ 34.7	▲ 13.0	▲ 43.4	▲ 17.3	△ 8.6	△ 13.0
製造	▲ 11.1	△ 5.5	▲ 11.1	±0.0	▲ 55.5	▲ 22.2	△ 16.6	△ 5.5
卸・小売	▲ 14.2	▲ 7.1	▲ 42.8	▲ 21.4	▲ 42.8	▲ 39.2	△ 7.1	±0.0
サービス	△ 12.5	△ 25.0	±0.0	△ 18.7	▲ 50.0	▲ 25.0	△ 12.5	△ 12.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 24.7	▲ 15.2	▲ 5.8	▲ 4.7
建設	▲ 26.0	▲ 8.6	±0.0	△ 13.0
製造	▲ 11.1	▲ 5.5	▲ 5.5	▲ 5.5
卸・小売	▲ 39.2	▲ 28.5	▲ 21.4	▲ 21.4
サービス	▲ 12.5	▲ 12.5	△ 12.5	±0.0

【平成27年6月の業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	キーワード	業種
建設	結婚していない子供が、親の実家に同居するためのリフォームが増えてきた。同居による経済的メリットと老後への不安解消とあいまっているのか。	リフォーム工事	一般土木建築工事業
	仕入単価の増加分を積算価格に転嫁できず、賃金を上げられない。工事の品質を保つため努力をしている。	仕入単価上昇 価格転嫁への課題	電気工事業
	仕入れ価格が全て上昇しているのに、価格転嫁出来ない。仕事はあるのに利益が出ないです。	仕入単価上昇 価格転嫁への課題	内装工事業
	仕入れ価格が上げ止まりとなり落ち着いたが、施工単価が下がり、厳しい状況が続いている。6月の売り上げは、前年より若干増加したが、3、4、5月と売上が減少した状態での持ち直し迄には至らない。6月に入り順調に進行していた工事も、長雨の影響で予定が大幅にずれ、7月は忙しくなりそうだ。只、業況回復の兆しは感じられないが、柏市内、柏市近郊での物件依頼、見積りが今年が増えてきている。	仕入単価高止まり 施工単価下落 長雨の影響 実感なき景気回復 見積り依頼件数増加	その他の職別工事業
製造業	原料が市場で投機対象になり、乱高下している。	不安定な原料価格	特殊産業用機械
	円安による海外調達品の値上がりや運転手不足による運賃の高騰、後継者不足による町工場の協会の減少などの問題がある。これらにより、仕入価格が上昇し、原価率悪化に影響を及ぼしている。	円安の影響(海外調達品値上がり) 運送費高騰 協会の減少 仕入単価上昇	その他の機械・同部品製造業
	当社では卓球ラケット、ベッド等が安定して良い。建設機械は中国景気、資源問題で非常に悪い。	中国景気の影響 資源問題	その他の金属製品製造業
	為替差益で利益はやや好転。内需回復は厳しい状況。新製品市場投入により設備投資本格化。	為替差益による利益増加 厳しい内需回復 設備投資	織物業
	自社業況は改善に向かっていると思う。地域の業況を参考にしながら、現在、何を優先すべきかを考え、対応の幅を広げ、この地域で継続することを思っている。	業況改善傾向	印刷業
小売業	7月からのプレミアム商品券の発行で、多少、景気が上向きになることを期待したい。週末の来客数が落ち込んでいます。駅前よりも郊外へ出掛けるお客様が増えているようです。	プレミアム商品券 景気回復への期待 来店客数の落ち込み	その他の各種商品小売業
	政府やマスコミによる景気回復報道は、全く現実の経済状況とはかけ離れていると感じる。格差社会がもたらす将来の影響は大で、大きな懸念を持つ。一般的に個人消費は良くないが、それは今までのやり方に胡坐をかいている多くの企業の問題かも知れない。欲しいものには多くのお金を出す傾向も感じ取れる。雇用状況は良くない。辞めない会社の作り方や労働環境の改善が急務である。	実感なき景気回復 格差社会 個人消費停滞 労働環境の改善	各種食料品小売業
	近隣の同業種店舗が開店したためか、お客様が前年比、前月比増。売上も増えた。	同業種店舗の開店	菓子・パン小売業
	父の日は売り上げが良かったです。	父の日	菓子・パン小売業

【平成27年6月の業種別業界内トピックス】

卸小売	<p>最近の青果物流通は、それぞれに地域活性化できる特徴のある野菜や果物の栽培に取り組んでいる動きを感じます。しかし、今年も過去に経験のない自然の気象変化として、干ばつ、豪雨や雷、突風などで栽培に影響されることもあるようです。現在では、高冷地の野菜は低温で生育遅れがあるとの情報もあります。その他は概ね順調のようです。市場全体としては、入荷減少、単価高での取り引きとなっています。今後については、夏期イベントに合わせた商材に取り組み、安定供給する様に努力しています。</p>	<p>特徴ある野菜栽培 入荷減少 単科高 夏期イベントに合わせた取り組み</p>	<p>食料・飲料卸売業</p>
	<p>中元は、前年よりも1週早めで展開したものの、6月に入っても好調に推移。衣料品は6月末スタートのセールを本年7月スタートに変更のため、後半は苦戦している。宝飾・時計などの高額品は、前年に引き続き好調を維持。前年、消費税の反動が最も大きかっただけに、当面この傾向は続くと思われる。</p>	<p>中元(早期展開) セール苦戦 高額品好調</p>	<p>百貨店</p>
	<p>プレミアム商品券の効果に期待。</p>	<p>プレミアム商品券</p>	<p>その他の各種商品小売業</p>
	<p>顧客の高齢化が進み、来店客数が益々減少している。旧商店街の個店においては、どのように対応していくかが最も重要な課題である。</p>	<p>顧客の高齢化 来店客数減少</p>	<p>婦人・子供服小売業</p>
サービス	<p>前月同様に、前年比較で売り上げは減少。7月はプレミアム商品券、柏まつり、地域のイベント等で、希望を持って事業を推進したいです。</p>	<p>売上減(前年同月) プレミアム商品券 柏まつり 地域イベント</p>	<p>酒場・ビヤホール</p>
	<p>夏以降、学生衣料、靴、鞆類、他の値上げラッシュ。理由として為替の影響が大きい。</p>	<p>衣料品値上げ 為替の影響</p>	<p>その他の飲食料品小売業</p>
	<p>法人需要、個人需要ともに北陸方面が大人気。特に10・11月は会議や学会などで、平日も週末も既に予約でいっぱいの日も多い。国内個人需要では、大阪のテーマパークにアーリーパークインできる商品が相変わらず人気。国内海外ともに、日数の短いショートクルーズが人気。海外は、法人・個人ともに韓国が不調。</p>	<p>北陸旅行人気 大阪テーマパーク関連商品人気 韓国旅行不調</p>	<p>旅行業</p>
	<p>相変わらず、お客様からの問合せは多いです。但し、購入には及び腰で、値下げ要求が厳しい。仕入れ値が上昇しており、物件仕入れが難しくなっている。</p>	<p>問合せ件数増 厳しい値下げ要求 仕入単価上昇</p>	<p>不動産管理業</p>
	<p>近年、市内及び隣の流山市のあちこちで大型のマンション建設が進んでいますが、地域の持続的成長を考えた時、不安な部分を感じます。</p>	<p>大型マンション建設</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>
	<p>今のところは売上が順調に推移しております。</p>	<p>売上順調な推移</p>	<p>不動産賃貸業</p>
<p>株高、円安になるも、消費者購買意欲は高まらず。暴落も間近ではという不安が大きいです。</p>	<p>消費者購買意欲の停滞</p>	<p>ソフトウェア業</p>	

◎仕入単価上昇

仕入単価の増加分を積算価格に転嫁できず、賃金を上げられない。工事の品質を保つため努力をしている。

電気工事業

仕入れ価格が全て上昇しているのに、価格転嫁出来ない。仕事はあるのに利益が出ないです。

内装工事業

円安による海外調達品の値上がりや運転手不足による運賃の高騰、後継者不足による町工場的協力会社の減少などの問題がある。これらにより、仕入価格が上昇し、原価率悪化に影響を及ぼしている。

その他の機械・同部品製造業

◎実感なき景気回復

業況回復の兆しは感じられないが、柏市内、柏市近郊での物件依頼、見積りが今年はずえている。

その他の職別工事業

政府やマスコミによる景気回復報道は、全く現実の経済状況とはかけ離れていると感じる。格差社会がもたらす将来の影響は大で、大きな懸念を持つ。一般的に個人消費は良くないが、それは今までのやり方に胡坐をかいている多くの企業の問題かも知れない。欲しいものには多くのお金を出す傾向も感じ取れる。雇用状況は良くない。辞めない会社の作り方や労働環境の改善が急務である。

各種食料品小売業

◎プレミアム商品券

7月からのプレミアム商品券の発行で、多少、景気が上向きになることを期待したい。

その他の各種商品小売業

前月同様に、前年比較で売り上げは減少。7月はプレミアム商品券、柏まつり、地域のイベント等で、希望を持って事業を推進したいです。

酒場・ビヤホール

平成27年6月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.7に対し、「CCI-LOBO」が▲15.3で柏の方がマイナス幅が9.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.2に対し、「CCI-LOBO」が▲10.2で柏の方がマイナス幅が2.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。柏の景気の方が悪い業種は、製造業、卸小売業である。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.8に対し、「CCI-LOBO」が▲16.7で柏の方がマイナス幅が9.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。柏の景気の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」の方が▲47.0に対し、「CCI-LOBO」が▲42.5で柏の方がマイナス幅が4.5ポイント大きい。「柏の景気」が良い業種は、卸小売業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、製造業、サービス業では10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△10.5に対し、「CCI-LOBO」が△11.6で柏の方がプラス幅が1.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業であり、製造業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.8に対し、「CCI-LOBO」が▲10.4で柏の方がマイナス幅が4.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。

平成27年6月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 24.7	 ▲ 26.0	 ▲ 11.1	 ▲ 39.2	 ▲ 12.5
CCI-LOBO	 ▲ 15.3	 ▲ 15.1	 ▲ 12.6	 ▲ 19.8	 ▲ 11.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 8.2	 ▲ 13.0	 ▲ 11.1	 ▲ 14.2	 △ 12.5
CCI-LOBO	 ▲ 10.2	 ▲ 16.7	 ▲ 9.4	 ▲ 12.6	 ▲ 7.9

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 25.8	 ▲ 34.7	 ▲ 11.1	 ▲ 42.8	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 16.7	 ▲ 15.1	 ▲ 18.2	 ▲ 20.4	 ▲ 14.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 47.0	 ▲ 43.4	 ▲ 55.5	 ▲ 42.8	 ▲ 50.0
CCI-LOBO	 ▲ 42.5	 ▲ 41.8	 ▲ 38.7	 ▲ 43.8	 ▲ 39.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 10.5	 △ 8.6	 △ 16.6	 △ 7.1	 △ 12.5
CCI-LOBO	 △ 11.6	 △ 7.9	 △ 5.4	 △ 16.2	 △ 19.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 5.8	 ±0.0	 ▲ 5.5	 ▲ 21.4	 △ 12.5
CCI-LOBO	 ▲ 10.4	 ▲ 7.5	 ▲ 10.0	 ▲ 15.5	 ▲ 10.5

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (6月速報)

調査期間：平成27年6月15日～19日

調査対象：全国の422商工会議所が2986企業にヒアリング調査を実施

全国の業況
業況DIは、緩やかに持ち直しも、足元で一服。先行きは底堅い動きが続く

6月の全産業合計の業況DIは、▲15.3と、前月から▲1.8ポイントの悪化。円安の影響によるコスト増が続く中、取引価格への転嫁が遅れているほか、人手不足や人件費の上昇が中小企業の景況感を押し下げた。他方で、回復のペースにはらつきはあるものの、好調なインバウンドや株高・賃上げを背景に、個人消費は持ち直しに向けた動きが続くほか、設備投資も回復の兆しがみられている。中小企業の景況感には、比較対象となる前年同月に消費税引き上げの影響が残っていたことへ留意が必要であるが、総じてみれば緩やかな回復基調が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲14.8（今月比+0.5ポイント）とほぼ横ばいを見込む。賞与増を含む賃上げやプレミアム付商品券をはじめとする政策効果などを背景に、夏以降の個人消費、設備投資の回復を期待する声が聞かれる。他方で、円安に伴う一段のコスト増や価格転嫁の遅れ、労働需

給の逼迫による人件費の上昇などへの懸念から、先行きに慎重な見方も伺える。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「自治体からの公共工事の発注が低調。特に土木関連が乏しい」（一般工業業）、「円安を背景に、自動車関連をはじめ取引先の業績が好調に推移しており、自社にも好影響が及んでいる」（一般工業業）、「需要の鈍さから、一部の資材価格が下落したものの、依然として仕入に係る負担は重く、人件費の上昇もあって、採算は厳しい」（建築工業業）

【製造業】「円安などの影響により、アーモンドをはじめ原材料価格が上昇。一部の乳製品も高値となっており、収益を圧迫している」（洋菓子製造業）、「取引先が海外から国内に生産をシフトさせており、自社への引き合いも増加。他方で、設備や人手が不足しており、十分に対応できない」（衣料品製造業）、「造船関連の受注を確保できたほか、足元では工作機械向けも好調に推移している」（金属製品製造業）

【卸売業】「円安に伴う飼料価格の上昇を受けて、鶏卵の卸値が高止まりしており、需要の減少が懸念される」（畜産物卸売業）、「仕入価格の上昇が続くが、取扱商品の絞り込みや新商品開発、転嫁交渉などの成果がはじめており、採算は好転している」（食料・飲料品卸売業）、「人件費などのコスト増が続いているが、ホテル向け寝具をはじめ、売上は増加傾向にある」（寝具・衣料品用繊維資材等卸売業）

【小売業】「夏物セールの開始時期を7月に遅らせたことに加え、プレミアム付商品券の利用も7月から始まるため、一時的に買い控えがみられる」（百貨店）、「高所得者層の消費は活発なもの、総じてみれば支出を抑える消費者が多く、売上の回復が鈍い」（総合スーパー）、「雑貨や宝飾品などが堅調なほか、低迷していた婦人服も上向いている」（商店街）幹線を利用して来県する観光客が多く、特に休日は満室の状況が続いている」（旅館業）

【サービス業】「ガソリン価格が上昇してきているが、転嫁が進んでいないため、採算悪化を見込む」（運送業）、「売

上は前年並みを確保できたものの、火山活動の影響から、客足が鈍いように感じる」（旅館業）、「賃上げを検討しているが、先行きに確信が持てないため、当面は賞与の増額等で様子を見る」（自動車整備業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲25.9	▲14.4	▲17.5	▲30.5	▲48.2	▲19.2
2月	▲21.7	▲9.4	▲14.9	▲29.8	▲43.5	▲12.9
3月	▲24.7	▲6.8	▲15.6	▲34.2	▲49.7	▲17.7
4月	▲15.3	▲10.1	▲15.6	▲20.5	▲18.1	▲13.2
5月	▲13.5	▲13.4	▲15.1	▲17.3	▲13.6	▲10.0
6月	▲15.3	▲15.1	▲12.6	▲20.6	▲19.8	▲11.6
見通し	▲14.8	▲11.8	▲10.7	▲24.0	▲22.7	▲9.4